www.xtrapapers.com

Diploma Programme
Programme du diplôme
Programa del Diploma

Japanese A: literature – Standard level – Paper 1
Japonais A : littérature – Niveau moyen – Épreuve 1
Japonés A: literatura – Nivel medio – Prueba 1

Wednesday 10 May 2017 (afternoon)
Mercredi 10 mai 2017 (après-midi)
Miércoles 10 de mayo de 2017 (tarde)

1 hour 30 minutes / 1 heure 30 minutes / 1 hora 30 minutos

Instructions to candidates

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Write a guided literary analysis on one passage only. In your answer you must address both of the guiding questions provided.
- The maximum mark for this examination paper is **[20 marks]**.

Instructions destinées aux candidats

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- Rédigez une analyse littéraire dirigée d'un seul des passages. Les deux questions d'orientation fournies doivent être traitées dans votre réponse.
- Le nombre maximum de points pour cette épreuve d'examen est de **[20 points]**.

Instrucciones para los alumnos

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Escriba un análisis literario guiado sobre un solo pasaje. Debe abordar las dos preguntas de orientación en su respuesta.
- La puntuación máxima para esta prueba de examen es **[20 puntos]**.

2217 – 0115
© International Baccalaureate Organization 2017

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

www.xtrapapers.com

次の文章と詩のうちどちらか**一つ**を選び、設問に沿って分析し、解説文を書きなさい。その際、二つある設問の両方に必ず答えること。

1.

焼却炉に捨てたもののなかには、たとえば牛乳壜（びん）のふた容（い）れがある。給食のときに班ごとに使う容れ物で、母親がつくる。廃物利用だ。構造は簡単で、二つ重ねたいちごパックのあいだに布をはさみ、全部一緒に口をかがる。はさむ布によって、いろいろな色柄の容器になった。牛乳壜のふたなどそれぞれが捨てればよさそうなものだが、ともかくそういう容れ物を使うことになっていたのだ。学期のはじめに、みんな雑巾と一緒に提出する。

母も、刷り物の指示どおりにそれをつくった。布はあかるい黄緑色で、小さな白い花がいちめんに散っていた。口は紺色の紐（ひも）でかがってあった。

提出された容れ物は積み重ねて部屋の隅に置かれ、給食の時間になると当番が配った。どれを使ってもよかった。ふた容れはずいぶんたくさんあったし、そんなものの柄など誰も気にしていなかった。

私は、母のつくった容器がよその机に置かれているとそわそわした。落ちつかないのだ。母のそれが特別気に入っていたわけではない。もっと色鮮やかな花柄や、洒落たビニストライプのものなどいろいろあって、それらにくらべるとまるで地味で目立たなかった。ただ、それはとても母らしいものだった。

私はある朝はやく登校し、母のつくったふた容れを焼却炉に捨てた。夏で、清潔な太陽が白く輝いていた。

捨ててしまうと私は心からほっとした。〈中略〉

こんなこともあった。

工作の時間に小さな家をつくることになっていた。空き箱だの端ぎれだの、利用できそうなものをそれぞれ家から持ってきてつくる。庭の柵はマッチ棒で、煙突はマーブルチョコレートの筒で。

始業前の休み時間に、私はそれをみつけた。ふいに目にとびこんできたのだ。ななめ前の机の上に、大小の箱やアルミ箔、毛糸くずなどと一緒におきざりにされていた。透明なプラスチックでできたセロテープのパッケージ。窓だ、と、一目みてわかった。具合いよくとびだした形をしているので、ぱりっとして美しい出窓になるだろう。

盗むのは簡単だった。立ちあがってまっすぐ前に歩き、教壇の横の扉から廊下にでる。途中でほんの少しだけ、手をのばせばいいのだ。小さな窓を手のひらに収めて、

www.xtrapapers.com

そのまま廊下にでればいい。大切なのは、とってすぐにポケットに入れたりしないことだ。たとえ手のひらに収まりきれていなくても大丈夫。知らん顔で廊下にでて、それからゆっくりしまえばいい。私のように目立たない、おとなしい子供にとって、休み時間の教室はむしろ人目のない場所なのだった。

じきに、窓の持ち主が席にもどって、セロテープのパッケージがないと言ってさわいだ。そのときになってやっと、私はいま自分がそれを使うのは、危険な行為だと気がついた。

もったいない。私はほとんど非難する気持ちでななめ前の席の子をみた。さわぎたてなければ使ってあげたのに。

階段をおりる足どりは軽やかだった。上履きのまま下駄箱を通りすぎ、渡り廊下を通って体育館の裏にまわる。焼却炉はやさしく頼もしいたたずまいでいつもそこにあった。錆びて、葡萄色に近い茶色になった四つ足のかまど。

ポケットからだすと、それはもはやぱりっとした美しい窓になるはずのものなどでは全然なくて、ただのセロテープのパッケージ、ちっぽけでつまらないごみなのだった。私はためらうことなくそれを捨てた。

江國香織「焼却炉」『すいかの匂い』より（二〇〇〇）

(a) この抜粋文では、「私」はどのような子どもとして描かれていますか。また、「私」にとって「焼却炉」とはどのような存在だと考えられますか。

(b) 作者は、語句、文体、表現などにおいてどのような工夫をしていますか。また、それはどのような効果を与えていますか。

www.xtrapapers.com

2.

峠

峠は決定をしているところだ。

峠には訣別のためのあかるい憂愁がながれている。
峠路をのぼりつめたものは
のしかかってくる天碧に*身をさらし
やがてそれを背にする。
風景はそこで綴じあっているが
ひとつをうしなうことなしに
別個の風景にはいってゆけない。
大きな喪失にたえてのみ
あたらしい世界がひらける。
峠にたつとき
すぎ来しみちはなつかしく
ひらけくるみちはたのしい。
みちはこたえない。
みちはかぎりなくさそうばかりだ。
峠のうえの空はあこがれのようにあまい。
たとえ行手がきまっていても
ひとはそこで
ひとつの世界にわかれねばならぬ。
そのおもいをうずめるため
たびびとはゆっくり小便をしたり
摘みくさをしたり
たばこをくゆらしたりして
見えるかぎりの風景を眼におさめる。

真壁仁『至上律』より（一九四七）

* 天碧… 青空

(a) 「峠」はどのようなイメージで語られ、詩人はどのような意味を託していますか。

(b) この詩の表現上の特色を述べ、その特色がどのような効果を生み出しているかを論じなさい。